

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	対象者(高齢者)が、身体的にも精神的にも健康であれ、不健康であれ、対象者の欲求を充足していく、対象者の尊厳を守り、すべての情報の秘密を厳守する、対象者に親切丁寧で優しく切実に対応し、日々知識技術の向上に努める という理念を作り上げている。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	施設理念を詰所入口に掲示し、日々理念に沿ったケアを目指しているが、全職員が理念を述べられるところには至っていない。		理念の共有をし、実践に向けて取り組んでいる。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域相談室という独自のものを作り、配置。地域の方々へ理解してもらえるよう取り組んでいる。		地域の方々より、理解を得られるようこちらから出向くなど積極的に取り組んでいきたい
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	職員が近隣の除雪を手伝ったり交流がある。また、いつでも立ち寄ってもらえるよう施設を開放している。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	現在、町内会に加入し地域活動に参加している。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域相談室を基盤として、地域の高齢者の暮らしなどの相談を受け、役立てることがないか考え、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>今回の自己評価及び外部評価を行うことにより改善点を見出しケアの向上に取り組んでいきたい。</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>市町村が行う研修等には積極的に参加するようにしている。また分からないことはこちらで判断することなく、市町村に確認するなどして連携をとり、サービスの向上に取り組んでいる。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>理解した上で支援している。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>管理者が職員と定期的にミーティングを行う、個別に面談し話を聞くなどし、現状の把握をすることで虐待が起こることのないよう、また未然に防止できるよう注意をしている</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>利用者本人、家族と話す機会を作るようにしている。またこちらから話しやすい環境をつくるよう心がけている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者と話す機会を多く持つようにするなど、話しやすい環境づくりを努めている。いただいた意見は運営推進委員会やミーティングなどで開示し、今後の課題にあてている。</p>		
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>定期的に報告するという形ではなく、受診・特変時など細部にわたる報告、他家族連絡が必要な際や来所時には本人の状況をお伝えできるようにしている。</p>		
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>契約書にも明記してあるとおり、苦情申し立て窓口を設置している。受けたご相談内容においては迅速に対応できるよう心がけている。</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>スタッフとの意見交換の場は設け、反映させられることはするようにし、そうでない場合も検討の一つとして考えている。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>勤務表においては必要な人員を配置している。また夜間など突発的にフォローができるように常に携帯で連絡がとれるようにしている。状況に応じて勤務変更も柔軟に行えるようにしている。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の面接時には、離職による利用者の不安が大きいため長期的に働いてもらうことを前提に面接、採用を行っている。またやむを得ず離職する際は利用者に与える不安が最小限ですむようにケアにあたっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		職員個々の実績や資格、勤務態度などによってリーダーになることができる。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		本人面談の際に、状況観察、本人の訴えなどあらゆる視点から情報収集し、それをふまえたうえでのコミュニケーションなどを大事にしている。信頼関係の構築を図れるよう常に努力している。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		入居前より家族との情報交換は密にとっており、相談内容把握に努めている。家族、本人の意向に沿った話し合いができるよう今

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	何が今必要なのか、何を求められているのか、話し合いの中から判断し、それらにあったサービス提供を心がけている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	このような施設に対して抵抗を感じているようであれば、試行外泊を行い、徐々に慣れていただくような機会も作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	高齢者の方々は人生の先輩であり、スタッフも日々学ぶことも多々ある。日常生活を共にすることで、喜怒哀楽を共感できる環境づくりに日々励んでいる。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の状況を定期的にお伝えすると共に、家族の協力が必要なときは得られるよう働きかけている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者の状況を定期的にお伝えすると共に、家族の協力が必要なときは得られるよう働きかけている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の面会に関しては家族の了解のある方には応じている。(個人情報保護法に基づいて)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員が利用者の仲介役となることで、利用者同士の関係が築けるよう努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても、家族や利用者と定期的に連絡を取る、面会に行くなどすることで、状況を把握するなど関係を続けている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が本人と面談をする、コミュニケーションの場を設けるなどし、利用者一人一人の思いを傾聴できるような環境づくりに取り組んでいる。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人または家族と面談をし、状況によっては自宅を訪問する、家族の協力を得るなどし、これまでの暮らしを把握しケアに結びつける配慮をしている。		今後も定期的に行っていききたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	2ヶ月に1回サマリーを作成し、利用者に変化があれば看護・介護計画の修正を行うと共に、利用者とのコミュニケーションを図ることで、暮らしや一般状態の把握をしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	作成した看護・介護計画においては、家族に同意や意見をいただき、今後のプランに活かしている。また月に1回、ケアマネージャー、職員と担当者会議を開催し、ケアの向上に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者に変化があったときは新たな計画を作成し、変化がなくとも定期的に計画の見直しを行っている。必要であれば家族と話し合う場を設けるように対処している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	ケアに携わった後は必ず個人記録に経過を残し、情報共有している。ミーティングでは介護計画を見直すことでよりよいケアを提供できるよう日々努力している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホーム、グループハウス、デイサービス、ヘルパーステーション、居宅支援事業所、それぞれ事業所を点在させることにより、様々な要望に多機能性を柔軟に活かせるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	施設行事の際にはボランティアの方が来られて、余興を行って下さるなど関わりがある。また福祉園の方々が週に2回、施設内の清掃に来て下さっている。		今後、個々に関しては本人の意向を尊重した上で必要である地域資源を利用し支援していきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の必要性に応じて、他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合う場を設け、適切なサービスを利用できるよう支援している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域相談室を筆頭に連絡、連携を取り合い、相談・検討を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎朝検温しスタッフが日々の状態をチェックしナースへ報告、ナースは法人に何名かは必ず常駐している体制をとっており、必要に応じて受診考慮。受診時は日頃の状態を分かるよう報告し、的確に診断、処置してもらえるよう支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医での受診、認知症の状態が分かるよう詳細を報告している。二ヶ月に1回、施設でもスケールを取り認知症の状態確認を行なっている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師・准看護師いずれかは全部署に配置している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	受診先の病院と、入院が必要とされた場合の連携が図れるよう、常に情報交換を行っている。入院中の本人の状態の把握、または退院日の予定などこちらから連絡をとるように努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	高齢の方が多いため、急変時には病院搬送となる旨を家族に入居時にお伝えしている。また病院へも同説明を行っている。GHは病院と家族の中間地点で、現在は橋渡しの連絡方法で行っている。(家族からの代理依頼が多い。)		家族の都合もあり家族と共に病院を訪れ、今後について話すきっかけがなかなか今までもつかめずにいる。家族にも都合をつけていただき、病院、家族、GHでの話し合いが出来るよう働きかけは続けていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	残された時間をいかに快適に過ごしていただけるかを考え、ケアにあたっている。GHでの出来ること、出来ないことについてはスタッフ間でも情報共有し、本人が苦痛とならないよう出来ることを精一杯提供出来るよう心がけている。こちらで対応不可となった場合には病院側にもすぐに対処してもらえるよう連携をとっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	詳細記入したサマリーは必ずつけている。また、自宅へ戻られる時などは気を付けて欲しいことなどの説明、処置的なことが必要な方には手紙などをつけ、手法など記入したものをお渡ししている。誰が見て見ても分かりやすいものを情報としてまとめ、交換、話し合いしていた。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者に対しての対応、声かけひとつからスタッフ間で注意するよう心がけている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	一人一人の理解力に応じた対応をしている。こちらからの声かけで、意志決定を本人が出来るよう支援している。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースを尊重し、なるべく希望に沿えるよう努めている。		入居されている方全員の全ての要望にお答えするのは現実的に難しいが、少しでも欲求が満たされるよう臨機応変に対応出来るようにしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月1回、床屋さんに来所してもらっている。美容室希望の方は個別でお連れしている。お化粧品をしないと訴えられるときは、お手伝いしている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	生理的欲求でもあり、お食事は楽しみの一つとなっている。高齢者の嗜好に沿ったお食事の提供を考えている。配膳・下膳やテーブル拭きなどお手伝いして下さる方もいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	希望に応じて楽しみの一つとして規制はしていない。ただ、本人が持つ疾病によりタバコや酒類の量に関しては本人に説明し、規制をかけることもある。状況に応じて対応している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導を行い、不快を与えないよう支援している。時間で誘導するのではなく、個々のパターンに合わせ、可能な限りトイレでの排泄習慣を考えている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に火曜・金曜で行っているが、本人の希望があればいつでも入浴可能であることを説明し実施している。他入居者の入眠を妨げとなるような時間には遠慮していただくこともある。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	不眠のある方には、その原因を追究し阻害しているものを排除するようにし、快適に入眠していただけるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	レクリエーション、季節によっては散歩や外出行事など取り入れ、気分転換をはかっている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理できる方においては、多額ではないがある程度の金銭は所持してもらっている。また買い物ツアーなどでお金を使用したり、施設内設置の自動販売機などでも使用している。		自己管理できる方が限られており、管理意欲はあるが実際には出来ない方が少なくないため、その方たちの不満が聞かれることがある。その欲求をいかに緩和できるか考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	全て訴えに対応は出来ずとも、なるべく危険のない戸外であれば、スタッフ同行ものと出かけられるよう援助している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	月1回ペースで買い物、外出行事など行っている。また季節に応じた季節感のある景色を見に行ったりなど、イベントとして開催している。その際、家族も参加の希望があれば一緒に行かれることもある。		事前にお知らせすることにより、家族参加も増え、本人も喜ばれるのではないかと、あらかじめホーム内には分かりやすくポスターなどでお知らせはしている。来所された家族は見ているが、諸事情のため参加の声がないのが現状である。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	公衆電話の設置もあり、本人がかけるのは自由。外線対応もし、家族からの電話も受け、つないでいる。各居室も電話が取り付けられるようになっている。手紙やはがきを書かれる方もおり、投函している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでもどなたでも来訪できる。今は個人情報保護があり、家族の許可がない方についてはお断りしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会のもと、セミナーなど出席し、その情報をスタッフ間で共有できるよう、勉強会開催、その必要性を理解した上でケアにあたっている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	もとより施錠は行っていない。玄関が道路に面しており、無断外出者による事故を未然に防ぐためにセンサーを設置している。居室においてはプライバシー保護で鍵はついているも、本人の意思のもとにかけている方もいるが、こちらからかけることはない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	24時間の個人の状況はプライバシーを考慮した上で確認をしている。必要に応じて安全確保のため、本人合意で行動することもある。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物など基本的に危険性のあるものはこちらで管理することになっているが、個人のできる範囲で果物の皮むきなどをしてもらったり、身近なものとして扱うようにしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	勉強会を開催し知識養成することで、未然に事故を予防できるか、万が一の事故、災害時に備え、訓練を行なうなどしてスタッフ全員で取り組んでいる。		
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	勉強会にて急変時に実際に行う手順、方法など確認している。また迅速にナースにも伝わるようスタッフ間に浸透させている。		いざという時に全員が速やかに対応するのは難しいと思われ、もう少し「急変時」ではなく、「身近に」ある可能性のあるものとして、スタッフ間に浸透させていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災に対しては防災訓練を行ない、避難経路、入居者の移送など行っている。		水害、地震に対する対策にも取り組んでいきたい。災害に関わるようなことで地域の方と密接に関わるようにしていくことも必要である。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時、また入居後特変時など、その都度現在の状況とそれに伴い、今後考えられる可能性については必ずお伝えし、その場合にどう対応していくかなどの話し合いを家族と行うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日頃からの観察に伴い、少しでも異変があれば見逃さずバイタルチェック。異常があればナースに速やかに報告、迅速な対応に努めている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	大体どのような薬かという自覚はそれぞれあると考えられる。確実に投与できるよう援助している。		薬の内容の全てをスタッフが把握できてはいない。処方内容が変わったりしたときには、その都度連絡している。精神薬投与している方が多いため、薬の知識を勉強会などで広めていきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日の食事・水分摂取量の把握、運動量を把握し便秘予防を働きかけている。便秘した場合は原因の探求を行っている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人一人のADLに応じた援助を行うようにし、出来るところは自分で行っていただいている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々それぞれの食事、水分摂取量全て記録に残している。減少傾向にあっても情報により促す工夫も個別に考え行なっている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ、ノロウイルスに対してのマニュアルを作成し、それらの勉強会を開催し、学んだことを活かし実行できるよう取り組んでいる。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	キッチン周囲の清掃、管理は担当者により毎日行われている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> <p>施錠はせず、いつでも出入りできるような状況になっている。センサーがついており、家族や外部のお客様にすぐ対応、挨拶できるようにしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>快適な空間に生活できるよう配慮している。季節感のあるレクや催し物を考えて提供している。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>全室個室となっているため、プライバシー保護も確立。ホールも配置しているため、交流をはかりたい方は利用されている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>入居の際にも説明を行い、本人の大切にされているものなどの持ち込みに関しては、火の元関係以外はほぼ制限はない。住み慣れた環境に近い部屋にすることで、本人の精神安定もはかれるため話し合いにより行っている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>日中は天気の良い日に換気を行うよう努めている。温度調整なども本人と話し合いながら適温を保つようにしている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p> <p>残存能力を活かし、身体機能低下させないよう体操やレクリエーションを取り入れている。自分でできることはしていただき、依存心を高められないようできないところをお手伝いするようスタッフも心がけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>積極性を大切にできることをお手伝いしていただくほか、スタッフも共にサポートすることにより失敗も少なく、自信につながるよう援助している。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏季には花を植えたものを鑑賞したり、散歩がてら花をつんだり、トマトを収穫したりしている。園芸療法も取り入れている。</p>		

サービスの実績に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの実績に関する項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)